

サプライチェーンマネジメント

調達基本方針

豊田合成グループはサプライヤーとの共存・共栄の考えのもと、調達基本方針を定め、サプライヤーの皆様とパートナーシップを深めながら、持続的な成長を共に目指しています。

調達 基本方針	1. グローバル最適調達 当社は、原材料、製品、設備等を、コスト・品質・技術・生産を考慮しながらグローバルな観点で最適なものを公正に調達しています。 また、サプライヤーからの新技術・工法、新商品等のご提案を歓迎しています。	2. 相互信頼に基づく相互発展 当社はサプライヤーとのオープンで対等な関係を基本に、互いに企業体質の強化・経営の革新に努め、相互信頼関係を築くことで、TGグループの総合力の向上を目指しています。	3. 持続可能な社会に向けた取り組み 当社はSDGsをはじめとした社会課題への取り組むべき活動規範をガイドラインとして定め、サプライヤーと共有し活動を推進しております。また、サプライチェーンを含めた企業活動における法令遵守、機密保持の徹底を図っています。
------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

豊田合成のサプライチェーン

当社が直接取引している国内外におけるサプライヤーの数は、製品・部品で419社、資材・設備で327社であり、その他のサプライヤーを含めると合計772社となります。

	製品・部品	資材・設備	その他	合計
サプライヤー社数[単体]	419	327	26	772

グローバル連携

グローバルでの事業展開において、品質・コスト・リスク回避などあらゆる面を考慮し、さらに現地調達を推進していくために各地域の調達担当者間での連携に取り組んでいます。情報共有の場として、グローバル調達連絡会を年に2回開催し、各地域の拠点長とQCD(品質・コスト・納期)

に加え環境を含めたサステナビリティ活動における情報共有や課題解決に向けた対話をしています。またバイヤー教育資料や現地化推進情報の共有など相互サポートしながら、グローバルな調達網の強化に努めています。

新規サプライヤーとの取引

当社Webサイト上にエントリーフォームを設置し、新規提案や新規取引に対してオープンな対話をしています。

また新規取引開始にあたっては、QCDの評価に加え、当社のサステナビリティガイドラインへの賛同状況等を踏

まえた、経営の取り組み状況を確認し、取引開始におけるリスクマネジメントをしています。

同時に各種契約書や覚書の締結と合わせて、豊田合成の展開する各種ガイドラインを説明し理解を求めています。

サプライチェーン全体でのサステナビリティへの取り組み

企業におけるサステナビリティの取り組みに対する期待の高まりを踏まえ、「仕入先サステナビリティガイドライン」を作成しサプライヤーの皆様へご理解と実践を頂くことを要請しています。また、潜在リスクへの気付きと早期対策を目的にセルフチェックシートを提供し、セルフアセスメントを実施いただいています。

同ガイドラインは、人権・労働、環境、コンプライアンスなどの項目に関する方針を定めており、社会面(児童労働・強制労働・差別禁止や機会均等・結社の自由・団体交渉・長時間労働削減・最低賃金の遵守・健康と安全)に加え、水使用や生物多様性などの環境面への順守を要請しています。

環境に関しては、「グリーン調達ガイドライン」において、CO₂の削減、廃棄物を含めた資源循環、化学物質の管理を求めています。また、紛争鉱物については、サプライヤーに責任のある資源・原料調達を要請するとともに年に1回、全てのサプライヤーに協力いただき紛争鉱物に関する調査を実施しています。

上記の通り、様々に変化する社会情勢に合わせて、サプライチェーン全体で持続的な成長に必要な取り組みを促進しています。



サプライヤーとのパートナーシップ強化

毎年4月に「調達方針説明会」を開催し、国内主要サプライヤー約250社に対して経営理念や事業環境、会社方針を説明し、安全・コンプライアンス・サステナビリティ・品質・生産・原価に関する取り組みと目標を共有した上で、期待値懇談会を通じて結果の確認と改善に向けた協議を定期的に行っています。

さらに年6回「調達連絡会」を開催し、防火・防災の取り組み事例の紹介や、生産量・品質・コンプライアンス・サイバーセキュ

リティなどの情報の共有に加え、カーボンニュートラルをはじめとした社会課題に関する「セミナー」を開催しています。

2020年度からは、サプライヤーなどの経営者を対象に「経営困りごと相談室」を設置し、企業経営や財務、人事、法務など様々な経営課題について、少人数単位での率直な相談を受け付け、実効性の高い解決策をアドバイスすることに努めています。

共に成長するためのサプライヤー支援

安全・サステナビリティ・品質・原価・生産の観点から様々な支援を実施しています。特に、安全に関しては塗装などの生産設備の防火点検やリスクアセスメントに基づく未然防止活動、生産に関してはモノづくり改革活動による現場改善、いずれも人材育成支援と関連付けながら取り組みを進めています。なお、育成支援においては、当社のスキル保有者の出向やサプライヤーのコア人材の出向受入など、サプライヤーの経営課題に見合ったかたちで能力強化に努めています。

また、サプライヤーが相互研鑽や優良事例の横展開を目的に編成する「協和会」の活動を側面から支援し、人材育成の推進やカーボンニュートラルの実現に向けた活動へも取り組んでいます。特に「サプライヤー月間(12月)」では、改めて各社の日頃からのご尽力に心から感謝の意を表す

とともに、サステナビリティ活動の支援強化を図っています。

2022年は、サプライヤーが培ってきた知見を当社製品の付加価値向上に活かすなど、双方の競争力強化を図ることを目的に、協和会による「勝ち(価値)技展示会」を開催しました。各社の得意技術、付加価値製品、カーボンニュートラルなどのサステナビリティ活動などの紹介を通じて、新価値創造やサプライチェーン全体の企業成長につなげていきます。



2022年9月開催「勝ち技展示会」の様子。
各社多様な「価値技」の展示に、約700人が来場

サプライヤー情報のモニタリング

継続的に取引を実施しているサプライヤーには年に1回以上の頻度で、経営情報に関するサプライヤー調査票の提出を依頼しており、提出された内容を調達部全体で共有しています。大きな変化点についてはサプライヤーを訪問し、ヒアリング

を実施するなど、サプライヤーの変化をいち早くつかむことで、リスクの早期解決や困り事の解決など実施しています。

加えて、QCDを含めたサプライヤー評価を行い、各社の強みと弱み、課題を整理した上で、取引内容を検討しています。

従業員教育・研修

調達業務に従事する従業員一人ひとりが、サプライヤーに対し、オープンで公平・公正な調達活動を推進できるよう、「豊田合成行動倫理ガイド」に従った活動に努めています。

また、持続可能な社会の実現に向けては、社会課題や情勢に鑑みた取り組みをサプライチェーン全体で推進して

います。定例的な活動として、様々に変化する社会情勢に対応した調達活動を実践するために調達部会を毎月実施しており、全ての調達部員は、コンプライアンス(下請法、贈収賄など)、安全、カーボンニュートラルに関する情報などを周知しています。

関連団体やイニシアチブへの参画

当社は日本自動車部品工業会(JAPIA)・日本ゴム工業会(JRMA)などの業界団体に参加しており、社長がJAPIAの役員(理事)を務めています。

これらの業界団体での活動を通じ、経済産業省の推進する「パートナーシップ構築宣言」を行うなど、サプライヤー

と共に持続的に成長していくための取り組みを進めています。

またJAPIAの総務委員会において、震災に加え風水害やパンデミックを踏まえた「JAPIA BCPガイドライン」の改訂に参画し、自動車部品産業に関連するサプライヤーの方々とのBCP策定に資する取り組みなどを行っています。